科目名 Subject	日本語総合Ｐ General JapaneseP		教員名	日本語ﾁｰﾑ	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
実践的教育	×				
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本学習の中級段階の基礎ともいえる文法表現、漢字、語彙、正作文などを総合的に学習する。こ日本語総合N、日本語総合O、日本語総合Pは前期の日本語総合E、F、Gの授業を後期に引き継ぎ、同じテキストを使ってとテキスト本文の精読、重要な文型と表現、関連表現、応用練習(話す・書くを学習する。また、パソコンを使い、中級文の入力スキルも身につけることができる。日本語総合Pは日本語総合Nと日本語総合Nの復習と総まとめとスキルタスクで学習事項のまとめをする。				
授業の目標	中級レベルの学習をテキストを使用しながら授業を行う。内容としては初中級から引き続き高等な書き言葉、改まった日本語表現を6000から8000の修得するができる。また、中級レベルの1000字から1200字文章が書くことができ、読むこともでき、さらに話すこともできる。				
時間外学習 （予習・復習）	テキストに出てくる語彙や表現の意味確認などその数も増えるので30分から1時間程度の予習をして授業に参加することを前提とした授業をする。また、将来日本での就職の計画の中に入れ、Ｎ２レベルからN1レベルの学習も視野にいれ復習も必要である				
教科書・教材	教科書	みんなの日本語中級			
	教材	聴解CD			
	使用設備・備品	パソコン			
	参考文献				
評価方法	予習や復習を含めて、授業への参画度にも重点を置き、提出物の回数やその完成度など平常点を全体の40%、期末試験を60%で全体を評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。				
履修上の注意	テーマやトピックスにいて、事前情報をきちんと収集してから出席してください。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第１回	第８課　重要表現・話す	８課の語彙、表現の復習また人や人物を詳しく、即座に説明することができる。	テキスト８課の新出語彙、表現の意味や語彙を確認し口頭で説明できるようにしておく。タスクの説明を音読３回以上
第２回	第８課　聞く・会話・読む	読解「科学者について」内容をQAすることができる。会話では内容を聞き返すことができる	会話を確認のための聞き返しをしておく。復習は読むを自分QAして内容理解を口頭で3回以上し覚える
第３回	第８課　書く・練習問題	科学技術の発展と私達の生活について作文のフィードバックし、意見も入れて発表することができる	書くテーマ「科学技術の発展」の友だちの意見コメントを考える。　復習では自分の文章を声を出して音読する
第４回	第９課　重要表現・話す	買いたい物の条件や希望の重要表現の復習し、条件や希望の内容をわかりやすく印象のいい説明できる	新出語彙では関連語や反対の意味も調べ、表現の意味や語彙を復習し授業中に先生のQに答えることができること
第５回	第９聞く・会話・読む	正確に聞きとることができ、読むでは意見を意味読みをすることができ、意見も言うことができる	生活に役に立つ発明の例に改善や工夫について自分の経験をまとめておく　　復習では読むの内容のQAを自分で作り提出する
第６回	第９課　書く・練習問題	「カラオケ」の文章をフィードバックと間違いに気づくことができる。カラオケ以外でも比較の文章を作る	カラオケ以外のテーマを考えメモしておく。復習は練習問題の誤答を復習し正確に覚える
第７回	第10課　重要表現・話す	重要表現の反対語や関連語も覚えることができる。原因や理由の表現を使って、詳しく話すことができる	10課の重要表現を復習して反対の意味を言葉や関連語も調べる。話すでは授業中にやったことを復習すて自然に話す練習とすること
第８回	第10課　聞く・会話・読む	読むも意味読みから、さらに先生や友達を自由のQAすることができる	先生のQに確認し口に出しておく。授業でのQAの答えを違うAができるように練習する
第９回	第10課　書く・練習問題	人の性格の「記憶型」と「注意型」の比較文章のフィードバックと清書をし口頭で説明することができる	性格の記憶型か注意型を復習し フィードバックされた文章を3回以上読でおく。復習では発表した文章を3回以上読む
第１０回	第11課　重要表現・話す	重要表現は反対語や関連表現も覚えることができる。提案で場面を変えて応用した提案をすることができる	上手な提案のポイントを確認し場面を変えて例を作る。授業で勉強した話すを何回もして内容を覚える
第１１回	第11課　聞く・会話・読む	聞いたことをすぐに繰り返して発話することができる。日本語の文化を多面的理解することができる	日本の文化を説明できるように調べをしっかりしておく。復習では何回もよ読んでいろいろイメージして文章にする
第１２回	第11課　書く・練習問題	自分の国の伝説についての文 フィードバックと説明が不足しているところを補い、発表することができる	自分の国の伝説の文章で気づいたところを再チェックし清書する。練習問題はもう一度声を出して読み覚えること
第１３回	第12課　重要表現・話す・聞く	重要表現の反対語や関連語も覚えることができる。話すでは場面設定を変えて話すことができる	話すのCDでCDを聞かずにも内容が口に出てくる練習をしておく
第１４回	第12課　聞く・会話・読む	CDの内容の通り話すことができる。また、応用会話もすることができる	内容をイメージすることでいろいろ内容で会話ができるようになることを念頭に予習し、復習もする
第１５回	今期のまとめ　重要表現を中心に復習	１５回のまとめを重要表現を中心にする。これは試験対策のキーポイントである	しっかり復習して試験に臨み、結果が楽しみなるくらい勉強しておくこと